

大明小学校 校長室から

2019年4月9日

No. 2

文責 校長 飯久保一男

自分の安全（命）は自分で守る子どもを育てる



5日から朝の登校指導が始まっています。黄色い帽子の新1年生が入った新しい登校班での登校は、微笑ましくもありますが、不安でもあります。

今年は統一地方選もあることから、春の全国交通安全運動は5月になるとのことです。その交通安全週間の趣旨には、次のような文章があります。

次代を担う子どものかけがえのない命を社会全体で交通事故から守ることが重要であるにもかかわらず、依然として道路において子どもが危険にさらされている。

特に、新年度になり、入学や進級を迎える4月以降に小学生の歩行中・自転車乗車中の交通事故が増加する傾向にある…（以下略）

まさに、今がその時で、前述のように黄色い帽子の混ざった登校班の列に不安がよぎってしまいます。保護者の皆さんをはじめ、見守り隊の方々や、自主的に登下校を見守ってくださる有志の方々まで、朝のお忙しい時間や夕方の時間など、子どもたちの安全な登下校のためのご出労にお礼申し上げます。今週は、1年生が給食を食べずに午前中で帰っています。そのお迎え当番を1年生の保護者の皆さんに来ていただけていることも大変ありがたく思います。

さて、その中で、お願いがあります。文章のタイトルに書かせていただいた「自分の安全（命）は自分で守る子どもを育てる」という意識をもっていただきたいということです。1年生が登校を始めた今の時点では、もちろん旗を出していただいて安全に横断させていただくことをお願いしたいのですが、いつまでもそれでは困りますよね。子どもたちが、大人や上級生を頼っているうちは「自分の安全（命）は自分で守る子ども」とはいえませんが、自分で安全かどうかを判断し、横断できるように指導し、育てることが、保護者・地域・学校の役割です。

来週には避難訓練が計画されています。これも同じことがいえます。今年度初めての避難訓練ですので、担任の指導・指示のもと、避難経路を確認し、安全に避難できることを学ぶ機会となりますが、次回以降には、担任など教師のいない場で、地震や火災が起きたらどうするかという指導に切り換えていきます。地震が起きたときに、保護者や教師がいないと避難できない子どもでは困ります。「自分の安全（命）は自分で守る子ども」を育てるために、訓練の計画を立てています。

特に、交通事故は命に直結しますので、大人の力は必要です。指示や指導も欠かせません。危険だと思われる場合は、叱っていただきたいと思います。また、危険な場面を見かけたという場合には学校まで連絡をいただいても結構です。繰り返しになりますが、「自分の安全（命）は自分で守る子どもを育てる」ためのご協力をお願いいたします。

